

令和8年度

募集案内

青森県立中央病院

令和8年度臨床研修医 募集案内





充実の指導体制で、存分に修練を！

青森県立中央病院 院長

廣田 和美

当院は、東北地方でも有数の規模を誇る青森県唯一の県立総合病院です。

青森県の中核病院として、都道府県がん診療連携拠点病院、エイズ治療拠点病院、第3次救急医療、災害拠点病院等の様々な役割を担っており、循環器疾患、消化器疾患、脳神経疾患、呼吸器疾患、血液疾患、小児疾患、周産期医療、感覚器（眼科等）疾患などの分野について専門性の高い高度な医療を実施しています。

このため、「総合周産期母子医療センター」「救命救急センター」「がん・支持医療センター」「循環器センター」「脳神経センター」「糖尿病センター」「小児医療センター」「ロボット手術センター」を設置しています。

また医療DXを進めており、その一環でNOBORIと言うアプリを使ってPersonal Health Record（PHR）の導入とコマンドセンターを設置しました。NOBORIは、提携医療機関から提供された画像や検査結果、薬などの医療情報をスマートフォンでいつでも見ることができるアプリで、利用者は自分の医療情報をクラウド環境に保存して参照でき、家族、かかりつけ医との情報共有が可能です。コマンドセンター設置で、電子カルテシステムや部門システムなど院内の既存データを一元かつリアルタイムに分析・可視化でき、さらにAIの活用により入退院業務・病床管理の効率化および患者ケアの質向上を進めています。

研修にあたって、全国ランキングにも取り上げられるほどの豊富な症例数、多彩な放射線診断・治療装置を始めとした高度医療機器、充実した指導体制、活発な研究活動の奨励など、臨床での実力を身につけ、専門の資格を取得するために、絶好の場を提供できると自負しています。

大学病院等高度医療機関や県内自治体病院との連携を図り、効果的な研修プログラムを準備しており、本人の希望に沿った様々な組み合わせが可能です。

特に地域医療に意欲のある志を持った研修医を歓迎します。

山と海に囲まれ、食べ物が美味しく、夏にはねぶた祭りも楽しめるこの環境で、存分に経験を積んで頂きたいと思えます。

当院で臨床研修医を志す皆様を、職員一同心からお待ちしております。

1 応募資格

第121回医師国家試験合格見込の者

2 応募方法

次の書類を青森県立中央病院 総務室 職員支援課あてに送付すること。

- (1) 医師臨床研修申込書（別添様式）
- (2) 履歴書（別添様式）
- (3) 大学卒業（見込）証明書（様式自由）
- (4) 大学の成績証明書（様式自由）
- (5) 健康診断書（様式自由）
- (6) C B T個人成績表

3 募集人員

18名見込み（マッチング募集人数）

4 選考方法

書類審査及び面接により行います。

5 面接日（ ）内は出願締切

- (1) 8月 7日（金）（7月24日（金）必着）
 - (2) 8月24日（月）（8月10日（月）必着）
 - (3) 8月26日（水）（8月12日（水）必着）
 - (4) 9月14日（月）（8月31日（月）必着）
 - (5) 9月30日（水）（9月16日（水）必着）
- ・時間、場所などは追って通知します。
*マッチング後、仮契約書を送付します。

6 提出先及び問い合わせ先

〒030-8553

青森県青森市東造道2丁目1番1号

青森県立中央病院 総務室 職員支援課 臨床研修担当

T E L 017-726-8315

F A X 017-726-8325

E-mail kenbyo@pref.aomori.lg.jp又は、kensyu_kenbyo@pref.aomori.lg.jp

7 身分・待遇

(1) 身分

地方公務員法第22条の2第1項に定める一般職の地方公務員（会計年度任用職員）。

(2) 給与（月額）

1年次 396,720円（9月まで）

428,720円（10月から）

2年次 450,612円

※時間外手当、宿日直手当、扶養手当、通勤手当、住居手当、
期末手当、勤勉手当、寒冷地手当

(3) 年次休暇

1年次 15日（その他、夏季休暇・病気休暇・結婚休暇等）

2年次 20日（その他、夏季休暇・病気休暇・結婚休暇等）

(4) 社会保険

公的医療保険、公的年金保険、公的災害補償

(5) 宿舎

医師公舎及び独身寮あり

(6) 賠償責任保険

病院加入

8 研修プログラム

(1) プログラムの名称及び研修病院の型

1. 青森県立中央病院臨床研修プログラム

2. 基幹型臨床研修病院

精神科及び地域医療研修は研修協力施設（※1）で行われる。

また、選択科目については研修協力病院（※2）を選択することができる（2ヶ月以内）。

※1 研修協力施設

青森慈恵会病院、村上新町病院、外ヶ浜中央病院、平内中央病院、三戸中央病院、大間病院、公立野辺地病院、六ヶ所村地域家庭医療センター、ときわ会病院、木村健一糖尿病・内分泌クリニック、駒井胃腸科内科、県立あすなろ療育福祉センター、県立つくしが丘病院、板柳中央病院、弘前脳卒中・リハビリテーションセンター、五戸総合病院、北畠外科胃腸科医院、生協さくら病院

※2 研修協力病院

八戸市立市民病院、むつ総合病院、黒石市国保黒石病院、弘前大学医学部附属病院

(2) プログラムの特色

必修科目は、内科24週（糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、循環器内科、呼吸器内科、総合診療科、消化器・腫瘍内科、リウマチ膠原病内科、血液内科から選択）、地域医療4週、救急部門12週（うち4週は救急外来での研修、残りの8週は月3～4回の宿日直で対応、救急枠は12週すべて救急外来で研修）、外科8週（うち4週は外科、残りの4週は脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、産科・婦人科、皮膚科、形成・再建外科、眼科から選択）、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週としています。その他に当院の特徴として、麻酔科を8週の必修とし、全身管理や挿管等、各科においても有用な知識及び技術の習得を図ります。

選択科目は、内科系、外科系の他に病理部、臨床検査部、放射線部、新生児科など豊富であり、臨床研修到達目標に未達成がある場合はその補充にも充てられるため、充実した研修ができます。また、8週以内で研修協力病院（八戸市立市民病院、むつ総合病院、黒石市国保黒石病院、弘前大学医学部附属病院）での研修を選択することも可能です。

さらに、必修科目である地域医療研修に関しては、県内各地の病院及び診療所において行っており、病院間の連携を重視した、地域におけるプライマリケア研修を予定しています。一般外来については、原則として地域医療研修中に行う予定です。

また、救急枠では、12週間の救命部門研修の中で、ドクターヘリ搭乗による病院前診療、初療室での心肺蘇生や外傷診療にチームの一員として参加することで、心肺蘇生法、気管挿管、縫合処置、中心静脈穿刺等の手技を指導医の下、安全に数多く経験することができます。

(3) 具体的な研修コース

< 1年次 >（※4月の最初の1週間はオリエンテーションの予定）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科（必修）						救急部門 （必修）	外科（必修） （※1）	小児科 （必修）	麻酔科 （必修）		

< 2年次 >

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
産科・ 婦人科 （必修）	精神科 （必修）	地域医療 （必修）	選択科目（将来専門としたい診療科等） （※2）								

(※1) 外科(必修)は、4週は外科、残り4週は外科、脳神経外科、整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、心臓血管外科、呼吸器外科、泌尿器科、産科・婦人科、皮膚科、形成・再建外科、眼科のうちから選択し、8週間以上行います。

(※2) 選択科目については、研修協力病院での研修も可能です(8週以内)。

モデルコース その1【内科系志望】

<1年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科				救急	外科		麻酔科	精神科	小児科	産科・婦人科	

<2年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域医療	内科		選択科目【内科系】								

モデルコース その2【外科系志望】

<1年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
内科			救急	内科				小児科	産科・婦人科	麻酔科		

<2年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外科	精神科	外科	地域医療	選択科目【外科系】							

モデルコース その3【救急枠志望】

<1年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科						救急			小児科	産科・婦人科	精神科

<2年次>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内科		麻酔		地域医療	選択科目【総合診療科】						

9 ここがポイント

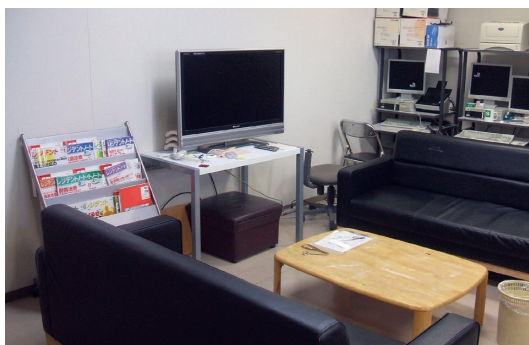
1. 青森県の中核病院であるため、あらゆる症例が集まり、幅広い経験ができます。
2. 選択科目が豊富であり、個々の希望に合った診療科で充実した研修ができます。
3. 麻酔科を8週の必修とし、全身管理や挿管等、各科においても有用な知識及び技術の習得を図ることができます。
4. 救命救急センターとドクターヘリ運航により、機能の充実した救命部門や県内唯一の総合周産期母子医療センターでの研修が可能です。
5. 当院は将来の青森県の救急医療、災害医療を担う医師を育成する責務を担っており、R7年度より、救急医を目指す研修医を青森県立中央病院臨床研修プログラム救急枠として採用しています。
救急枠で採用された研修医は12週間の救命センター研修を必須としますが、その他は従来のプログラムと変わりありません。12週間の研修ではドクターヘリ搭乗による病院前診療、初療室での心肺蘇生や外傷診療にチームの一員として参加することで、心肺蘇生法、気管挿管、縫合処置、中心静脈穿刺等の手技を指導医の下に安全に数多く経験できます。EICUや一般病棟では主治医（指導医）とともに担当医として治療計画の立案と実践を学んでいただきます。救命センターでの濃密な12週間はあなたを良医へと導いてくれるはずです。本県の救急医療、DMAT等災害医療に携わりたい方の応募をお待ちしています。
6. 研修教育関連の開催行事が活発です。（院内症例検討会（CPCを含む）、各科医師による研修医向け勉強会、研修医による勉強会、各種カンファレンス、年2回の研修医による症例報告会、全国のがんセンターを結ぶ多地点合同メディカルカンファレンスなど。）
7. 専用の研修医室には研修医各自の机・本棚のほか、医療情報システムの端末、コピー機、雑誌（「月刊レジデント」等を定期購読）、個別のレターボックスを常備しているほか、男女別の仮眠室やシャワー室等も備えています。また、図書館もありますので、文献検索ができる環境も整っています。
8. 初期研修医は1、2年目を合わせて30名以上が同じ研修医室を使うので、気軽に意見交換や先輩への質問ができます。



救命救急センター



ドクターヘリ



研修医室

10 主な年間行事等



研修医オリエンテーション（4月）



症例検討会（年7回）、CPC（年5回）、
2年目研修医による症例報告会（年2回）



ドクターヘリ



臨床研修修了式（3月）※写真は令和7年度のもの

11 宿舎

単身寮(H24年1月全面改修)および家族用公舎をご利用することができます。



部屋の様子



キッチン



バスルーム

12 研修修了後の処遇

研修修了後に引き続き当院において勤務を希望する場合は、各診療科の人員の配置状況を勘案した上で正職員として採用します。

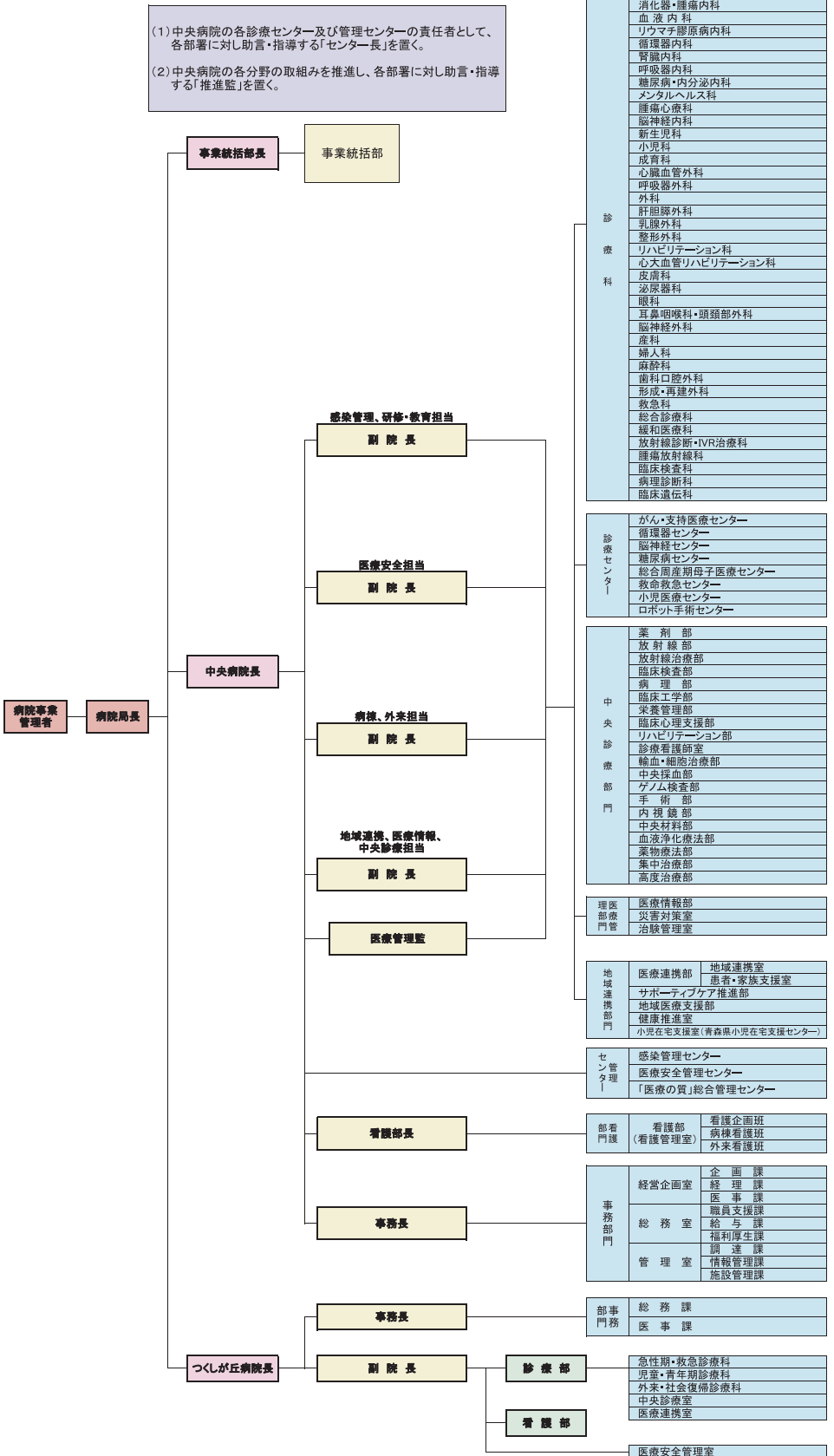
13 新専門医制度

平成30年度より開始された新専門医制度において、当院は内科（定員7名）、総合診療（定員6名）、産婦人科（定員2名）、麻酔科（定員2名）、救急部（定員4名）の基幹施設となっています。

研修修了後に、当院専攻医として研修を希望する場合は、正職員として採用します。

施設の概要

1. 開設者 青森県知事
2. 病院事業管理者 大山 力
3. 病院長 廣田 和美
4. 住所 〒030-8553 青森県青森市東造道2丁目1番1号
5. 組織図 (令和8年4月1日現在)



6. 医師数（令和8年4月1日現在）

190人

7. 病床数等

- ◆病床数 …………… 584床（一般579床、感染5床）
- ◆1日平均入院患者数（令和7年度）…………… 489.9人
- ◆平均在院日数（令和7年度）…………… 11.1日
- ◆1日平均救命救急受診患者数（令和7年度）…………… 43.2人
- ◆1日平均外来患者数（令和7年度）…………… 1,234.6人
- ◆年間全身麻酔手術件数（令和7年度）…………… 2,627件

8. 主な設備

ハイブリッド手術室、PET-CT、
ダヴィンチSiサージカルシステム、MRI装置3台、
CT装置3台、ライナックシステム2台、
アフターローディングシステム、心カテ装置、
血管連続撮影装置、マンモグラフィー2台、
シンチレーションカメラ3台、色素レーザー、
人工心肺装置、脳外科手術顕微鏡装置、
脳外科手術用ナビゲーションシステム、
デジタルラジオグラフィー、脳脊髄誘発電位検査装置、
電子顕微鏡、光線力学療法用半導体レーザー、
高気圧酸素装置、無菌室、人工透析室、LDR3室 他

9. 特徴的な診療

消化器癌・悪性リンパ腫集学的治療、造血幹細胞移植、切除
困難胆道癌の集学的治療、脳内視鏡手術、脳ナビゲーション
導入手術、脳神経血管内手術、脳卒中ユニット、内視鏡視下
鼓膜形成術、定位脳照射、硝子体手術（トリプル）、心拍動下
バイパス術、解離性大動脈瘤手術、経皮的冠動脈形成術・経
皮的冠動脈粥腫切除術及び・経皮的冠動脈ステント留置術、
大動脈バルーンパンピング法、ペースメーカー移植術、免疫
疾患に対する生物学的製剤治療、がんゲノム医療 等

10. 主な手術の実施件数（R7.1～R7.12）

- ・頭蓋内腫瘍摘出術等 [44]
- ・黄斑下手術等 [168]
- ・鼓室形成手術等 [0]
- ・肺悪性腫瘍手術等 [172]
- ・水頭症手術等 [32]
- ・肝切除術等 [45]
- ・子宮附属器悪性腫瘍手術等 [26]
- ・上顎骨悪性腫瘍手術等 [38]
- ・人工関節置換術 [223]
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 [157]
- ・冠動脈・大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを
含む）及び体外循環を要する手術 [246]
- ・経皮的冠動脈形成術・経皮的冠動脈粥腫切除術及び
経皮的冠動脈ステント留置術 [214]

病院の沿革

- 昭和27年
病院開設
- 昭和28年
総合病院に承認
- 昭和33年
救急病院に指定
- 昭和43年
研修病院に指定
- 昭和56年
新築移転、救命救急センター併設
- 昭和60年
電子計算機による医事会計業務開始
- 昭和61年
ICU加算の承認
- 平成8年
全国がんセンター協議会に加盟
エイズ治療拠点病院に指定
一般病床714床、結核病床16床となる
- 平成9年
がん診療施設情報ネットワークシステム起動
- 平成12年
(財)日本医療機能評価機構による機能評価の認定
オーダーリングシステムの全部稼働
- 平成13年
NICU設置
- 平成14年
非血縁者間骨髄移植・採取施設に認定
- 平成15年
外来化学療法加算の承認、外来治療センターの開設
- 平成16年
総合周産期母子医療センター開設
一般病床689床、結核病床16床となる
- 平成17年
(財)日本医療機能評価機構による
機能評価の更新認定
地域がん診療連携拠点病院に指定
- 平成19年
地方公営企業法の全部適用に伴い
病院事業管理者・病院局を設置
- 平成20年
都道府県がん診療連携拠点病院に指定
がん診療センター、循環器センター、脳神経センターを開設
- 平成21年
救命救急センターを中央診療部門
から独立させ機能強化
7対1看護体制
- 平成22年
糖尿病センターを設置
- 平成23年
新救命救急センター整備
一般病床689床、結核病床6床となる
- 平成24年
地域医療支援病院の承認
- 平成26年
MRI棟を稼働
- 平成27年
地域医療支援病院承認
第一種及び第二種感染症指定
医療機関に指定
- 平成28年
PET-CTを稼働
- 平成29年
一般病床679床、感染症病床5床となる
- 平成30年
ハイブリッド手術室を稼働
- 平成31年3月
チャレンジ(挑戦)プラン2019策定将来構想策定
- 令和2年2月
へき地医療拠点病院指定
- 令和3年4月
ゲノム医療部を設立
- 令和5年3月
県立病院第2期チャレンジプランの策定
- 令和7年3月
県立病院第6次中期経営計画の策定

当院の専門研修施設の指定状況

日本IVR学会IVR専門医修練認定施設	経カテーテル的大動脈置換術実施施設
アレルギー専門医準教育研修施設	胸部ステントグラフト実施施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（全部門）	腹部ステントグラフト実施施設
NCD施設会員	日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本カプセル内視鏡学会指導施設	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医 特定研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設	日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本感染症学会認定研修施設	日本成人病白血病治療共同研究グループ参加施設
日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B	日本大腸肛門病学会認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設	浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設（基幹施設）	日本透析医学会教育関連施設
日本救急撮影技師認定機構実地研修施設	日本透視医学会教育関連施設
日本外科学会外科専門医修練施設	日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設
日本血液学会血液研修指定施設	日本内科学会認定医制度教育病院
下肢静脈に対する血管内レーザー焼灼術の実施基準による実施施設	日本内分泌学会認定教育施設
日本航空医療学会認定施設	日本認知症学会専門医制度教育施設
日本口腔外科学会認定研修施設	日本乳癌学会認定施設
日本高血圧学会専門医認定施設	乳房再建用エキスパンダー実施施設
日本呼吸器学会認定施設	乳房再建用インプラント実施施設
呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設	日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設	日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本呼吸療法医学会研修施設	日本泌尿器科学会専門医教育施設（基幹教育施設）
日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設	日本皮膚科学会皮膚科専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医研修施設	日本病理学会研修認定施設
周産期専門医制度新生児研修施設（基幹施設）	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
周産期専門医制度母体・胎児研修施設（基幹施設）	日本プライマリ・ケア連合学会家庭医専門医認定施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本放射線腫瘍学会認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本専門医機構麻酔科専門研修基幹施設
日本消化器病学会認定施設	日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設
日本肝臓学会特別連携施設	日本リウマチ学会教育施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設	弘前大学臨床検査専門医プログラム
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設	日本臨床細胞学会認定施設
日本小児神経学会小児神経専門医研修施設関連施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本食道学会全国登録認定施設	日本臨床神経生理学会認定施設
日本神経学会専門医制度教育研修施設	日本専門医機構総合診療専門研修基幹施設
日本心血管インターベンション研修施設	IMPELLA補助循環器ポンプカテーテル実施施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設	

研修医からのメッセージ



- 30名余の研修医がみんなで仲良く使っている研修医室では、常に多くの情報が飛び交っています。
- 研修医室には、個人用デスク、談話スペース、ネット環境等が整備されており快適です。
- 県病の救命センターは、夜間・休日を問わず、多くの患者さんが受診されます。県内一の忙しさではありますが、様々な症例の初期対応を経験することができ、非常に勉強になります。
- 多岐にわたる診療科で、豊富な症例を経験できます。
- 各科の指導医による熱心で専門性の高い指導により、充実した研修期間を過ごすことができます。
- 県病で研修医時代を共に過ごした仲間は、医師としての人生を送るうえでかけがえのない存在となります。



Aomori Prefectural
Central Hospital

青森県立中央病院

- 病院の理念**
- 県民の健康をささえ
 - 安全で高度な医療を提供し
 - 患者さん中心の心あたたかな
 - 病院を目指します

- 病院の基本方針**
1. 良質で安全な医療の提供
 2. 患者さんの権利の尊重
 3. 保健・医療・福祉との連携
 4. 臨床教育・研究の充実



交通案内

青森駅からバス(市営、弘南)で県立中央病院前停留所まで約30分

〒030-8553 青森市東造道2丁目1番1号 青森県立中央病院 TEL (017) 726-8111 (代)・FAX (017) 726-8325
E-mail kenbyo@pref.aomori.lg.jp又は、kensyu_kenbyo@pref.aomori.lg.jp URL <https://aomori-kenbyo.jp/>